

【理事会議事録】

日 時：2011年3月17日（木）10：00～12：15

場 所：国立天文台三鷹 大会議室

出席理事：岡村，河合，本原，竹田，松尾，田代，
幸村，柏川，杉山(TV),太田(TV)（以上10名）

欠席理事：茂山，吉川，梅村，山田，仲野（以上5名）

杉山理事及び太田理事はTV会議システムにより議論に参加した。なお，梅村，仲野，吉川，茂山の4理事からは委任状が事前に提出されている。また，宮下事務長が出席した。

I. 確認事項など

I-1 議事に先立ち，議長と署名人の確認がなされた。議長：岡村定矩 署名人：竹田洋一，本原顕太郎

I-2 岡村理事長より3/11に発生した東日本大震災に対するお悔やみおよびお見舞いの言葉が述べられた。

I-3 前回議事録の確認（資料1,竹田）

資料1に基づき，前回（2011年1月22日）の理事会議事録が報告・確認された。

II. 報告

II-1 筑波大学における年会中止について（岡村・幸村，資料2）

岡村理事長より年会中止にいたるまでの経緯が説明され，引き続いて幸村年会実行理事よりキャンセル手続きの説明があった。ポスターボードレンタルのキャンセルで，実費のみの請求があったため，その支払を承認した。企画セッション及び特別セッションについては秋季年会で再度実施したい申し入れがあった。秋季年会では，これに加えて一般講演についても大幅に増加することが予想されるため，4日間開催を検討することとした。

II-2 今後の年会の準備状況

京都大学（太田，資料2）

公開講演会，及び記者発表は京都大学百周年時計台記念館にて開催する。経費は20万円程度を見込んでいるが，共催による割引はない。この支出について承認した。今後，龍谷大学の部屋の確保などを同大学の中山薫二氏と協力して進めてゆく。

大分大学（資料2）

仲野開催地理事が欠席のため，資料での確認を行った。会場使用料は概算で110万円であるが，大学との共催が認められると無償となる。その手続きを進めることとした。また，ポスターボードを350枚確保する前提で予算計上されていたが，表裏使うと実際にはその半分で済む。この枚数については幸村年会理事が確認することとした。

II-3 前回以降の新入・退会等会員の変動（本原，資料2）

2011年1月22日より2011年3月11日までの間の会員変動が報告された。2011年度に新たに1名の休会申請があった。申請締め切り後であったが，理由書を提出してもらった上で実務理事で議論し，特例として承認した旨報告された。II-4 2011年の全国同時七夕講演会について（本原・河合，資料2）

昨年度および一昨年度，日本天文学会と天文教育普及研究会が共催し，好評であった全国同時七夕講演会を，今年度も同様の形で行うことが報告された。柴田一成氏に委員長をお願いし，担当理事は河合副理事長（広報担当）とする。広報のためのポスター製作費用として40万円程度支出することを承認した。

II-5 小惑星・彗星・流星に関する国際会議開催について（本原，資料2）

天文学会が後援している「2011 Asteroids Comets Meteors Conference」が2011年7月18日～22日に新潟で開催されることが報告された。

II-6 PASJ理事からの報告（資料2）

茂山PASJ理事が欠席のため，資料による確認を行った。すばる特集号は3月末刊行予定であったが，地震の影響で紙版発行，電子版公開ともに4月上旬に遅れる。外国人編集委員については，ソウル大学のHyung

Mok Lee氏と上海天文台のYipeng Jing氏に依頼し、快諾を得た。この2名の方にはPASJ電子版へのフリーアクセス権を付与することとした。

III. 議題

III-1 年会参加に際しての講演登録料の事前支払いについて（幸村，資料2）

年会講演登録料の事前支払いを実施したい旨、幸村年会理事より提案があった。

-実施開始時期については2011年度秋季年会からと2012年度秋季年会からの2案が示された。2011年度開始の場合は銀行振込または郵便振替のみとし、それが物理的に不可能な会員については支払期間後の払込を認める。振込・振替手数料は会員が負担する。

-支払期間は講演申込受付開始から2週間と3週間の2案が示された。ただし、支払期間を3週間とした場合、これまでより講演申し込み受付が1週間前倒しになる。

この提案に対し、未払いの講演者についてはどのように対応するのかという質問が出され、支払期間後も継続的に催促する旨説明された。さらに、最後まで事前支払いを行わず会場で支払いをしようとする会員が発生するのではないか、というコメントがだされ、そのようなケースを防ぐために当日会場での支払いを行う場合は事務手数料として別途500円程度を追加で請求することとした。また、事前支払後に、今回のような災害により年会がキャンセルになった場合のガイドラインを作っておく必要性が指摘された。これら議論の後、事前支払いを2011年秋季年会から実施し、支払期間は2週間とすることで承認した。

III-2 準会員の年会参加登録費について（幸村，資料2）

幸村年会理事より、前回理事会・評議員会で議論が行われた準会員の年会参加登録費の取り扱いについて、さらなる調査を行った結果が報告された。まず、直近3回の年会では準会員による講演は全体の1割足らずであり、年会の運営に影響を与えるほどではない。また、歴史的に特別会員と通常会員、または正会員と準会員の間で年会の参加費に違いはなかった。これらのことから準会員の年会参加費を一般会員よりも高くする必要はないと結論した。ただ、準会員による発表の中でプロ（大学や研究機関所属）研究者の割合は8割であり、さらに年会発表を行わないプロの準会員が増加している可能性が指摘された。また、大学研究機関に所属している場合、準会員でもPASJへのアクセスは可能であるとの指摘もあった。これらは学会の会員のあり方の問題でもあるため、庶務理事が中心となって準会員の状況を引き続き調査することとした。

III-3 各賞の授賞式の取り扱いについて（本原，資料2）

各賞の授賞自体は前回の評議員会で確定しており、さらに次号の天文月報で公表されるが、授賞式は次回秋季年会以降に延期する。賞状、メダル、目録は事務所で保管しており、授賞式で手渡す。以上のことは受賞者には連絡済みであることが報告された。賞金の取り扱いについて議論を行い、早急に受賞者に振り込むこととした。また、次回秋季年会で授賞式や受賞講演などすべてをこなすためには、開催日数を増やすなどの対応が必要になることが指摘された。

III-4 公開講演会および記者発表について（本原，資料2）

公開講演会会場は当初3月19日より営業を再開する予定で、講演者も協力する意向を示しており、ぎりぎりまで開催の可能性を探っていた。しかしながら会場の被害が当初の予想以上に深刻であったこと、余震や原発事故などもあり安全確保に不安があることから、3月16日に理事長判断で中止を決定したことが報告された。4月以降の適当な時期に筑波で仕切りなおして行うことを検討することとした。記者発表についても現時点で行っても記者も集まらず、報道もされないと考えられるため、こちらも4月以降延期する。これらの検討は梅村開催地理事と河合副理事で行うこととした。

III-5 年会発表のない場合の予稿集の取り扱いについて（本原，資料2）

年会の発表は予稿集の記述と年会でのプレゼンテーションで構成されるというのがこれまでの理解であったが、今回の年会中止により、プレゼンテーションは行われぬ。しかしながら、講演内容を記述した講演予稿集は公表・販売されていることから今回に限り、年会での発表は完了したとすることが提案され、承認された。これに対して、次回秋季年会でプレゼンテーションのみを行うことはできないか、さらには秋季年会予稿集に春季年会と同一の内容であることを明記した予稿を掲載して発表することは認められないか、その場合には講演数の制限はかけるのか、そもそもそれを行うと講演数が激増して会場確保が不可能になってしまうのではないかなどの意見が出された。最終的には、次回秋季年会以降、今回と同一の内容の発表を行う

ことは認められないとすることが承認された。また、発表の引用は、「2011年日本天文学会春季年会予稿集〇〇〇」のようにすることとした。

III-6 予稿集の販売価格について（幸村，資料2）

幸村年会理事より、今回の春季年会は中止されたものの予稿集は研究結果を公表したものであることから、従来から行っていた年会終了後の販売価格である1000円にて販売を行うことが提案され、承認された。年会キャンセルによる収入減を補うためにも、なるべく広い範囲にアナウンスを行い、販売努力をすることとした。なお、198名の事前購入者については差額1000円の払い戻しを行うこととし、その方法は早急に検討する。また、予稿集に掲載された広告費は出稿した企業に請求を行うこととした。

III-7 被災者支援と学会の財務状況について（松尾，資料2）

松尾会計理事より、今回の大震災による日本天文学会の財政へのインパクトの試算が説明された。

-年会キャンセルによる赤字は予稿集の印刷代115万円からその売上を差し引いたものと、ポスターボードキャンセル分26万円など合わせて130万円程度であり、致命的影響はない。

-今後実施することを検討している被災者の一年分の年会費免除は、対象者は70名以上にはなるものの、申告制であることから必要経費は100万円程度であると想定している。

-秋季年会が東北大学で開催できない場合、代替会場としてコンベンションセンターなどを用いると1000万円以上の経費が見込まれ、現在の財政では支えきれない。

このことから、秋季年会の代替開催地はなんとしても大学関係機関にしないといけないことが確認された。

また、被災者支援として年会費免除以外にも検討するべきではないかという意見が出された。

III-8 2011年度秋季年会について（本原，資料2）

秋季年会の開催予定地は東北大学であるが、社会インフラの被害状況などをみると開催は困難であることが予想される。山田開催地理事と連絡をとったところ、秋季年会の代替開催地を検討することについては問題ないが、今年秋ならずとも、いずれ年会開催を引き受けたいという意向であることが報告された。また、これを受けて、国内複数大学に内々に代替開催を打診している旨報告された。秋季年会の開催地は遅くとも4月下旬には決定して天文月報の記事にする必要があることから、東北大学開催の可能性を残しつつ、代替開催地の検討をすすめることが承認された。

III-9 評議員選挙公示について（本原，資料2）

評議員選挙を4月20日に公示して行うことが承認された。

次回の理事会は2011年6月18日に開催される予定である。

【資料リスト】

資料1 前回理事会(2011/1/22)議事録

資料2 理事会資料

2011年4月15日

議長：岡村定矩 印

署名人：竹田洋一 印

署名人：本原顕太郎 印